

研究タイトル：日本から新規抗マラリア薬を世界へ

名前：綿矢 有佑

所属：岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）・教授

研究の背景と概要：

マラリアは日本では「瘧（おこり）」という名前で古くから呼ばれており、源氏物語にも登場した病気です。マラリアの歴史は古く、人々の歴史の随所で影響を及ぼしてきました。特効薬と言われた「クロロキン」は第二次世界大戦中アメリカ軍により開発された薬剤であります。当時戦病死者数が戦闘での戦死者数を上回り莫大な被害を受けた日本に対し、アメリカはクロロキンのおかげで軽微な被害に留めることができたとされています。しかし、近年そのクロロキンが効かない、薬剤耐性マラリアが出現し、治療を困難にしています。そのために薬剤耐性マラリアを克服出来る新規抗マラリア薬の開発が望まれています。

私達は長年にわたり新規抗マラリア薬の開発研究を行い、その中からマラリア原虫に高い阻害活性を有する新規環状過酸化化合物を見出し、マラリアの新薬開発につながる新しい知見を得ました。我々が見出した環状過酸化抗マラリア薬は、既存抗マラリア薬では見られない、単剤で高い治療効果を示し、また、完治効果を合わせ持っていることが判りました。また、脳性マラリアや経口での薬剤投与が出来ない患者にも注射剤として応用出来る方法も見出しました。我々が見出した環状過酸化抗マラリア薬がマラリアのコントロールに役立てるように現在、研究を進めています。

研究の遂行・進捗における特筆すべき事項：

マラリア、結核、及び AIDS を含む感染症治療薬の開発研究は重要研究課題であります。これら感染症は主として発展途上国の疾病のため、我が国の製薬企業からの研究は低調といわざるを得ません。これは発展途上国の人々にとって不幸であり、大学が率先して感染症治療薬の開発研究を遂行することが強く望まれます。

本研究はマラリアに苦しむ流行地の人々に新しい治療薬を提供する目的で、(独)医薬基盤研究所の支援を受け、岡山大学で実施して得られた研究成果です。

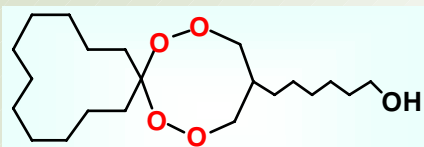
★公的資金（独立行政法人医薬基盤研究所）：

医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構の保健医療分野における基礎研究推進事業（平成16年～平成19年度、総額 562,000,000円）

新規抗マラリア薬の開発に関する研究、代表：綿矢 有佑

新規抗マラリア薬の開発に関する研究

抗マラリア候補化合物の特徴:



N-251

- ・ 安価
- ・ 有機合成品
- ・ 薬剤耐性に有効
- ・ 低毒性

新規抗マラリア薬として
臨床開発する

- ・ 流行地のマラリア
治療薬
- ・ マラリア予防薬

マラリアのコントロール